

平成28年度

徳島県立城ノ内中学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ① 社会の平和と発展に貢献する人材となることをめざし、主体的に学ぶ力を伸ばす指導
- ② 自己肯定感を高めることにつながる言語活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 着藤 文恵 (学力向上推進担当・第2学年主任)	委員 清水 敏彦(校長), 藤本 秀彰(教頭), 齋藤美智代(第3学年主任・国語科主任), 久保 博正(企画・研究課長・社会科主任), 山田 王代(第1学年主任), 篠原 貴道(教務課長・数学科主任), 紅露 瑞代(理科主任), 田中 弘子(英語科主任)
---------------------------------------	---

校長

清水 敏彦 印

(1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ	各教科等において基礎的・基本的な知識・技能の習得については、一定の成果が見られ、学力に二極化傾向がない。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ②毎日の自主学習を創意工夫して内容を充実させ、幅広く何度もくり返して学習できる。	定期テストにおいて各教科が掲げた目標点の達成率を80%以上にする。			
課 題	下位層では、苦手教科において知識・技能の習得が十分であるとは言えない。多くの宿題をこなすことに追われ、自主的に予習・復習をすることができていない。創意工夫した自学自習ができていないと言われている。	①各教科で小テスト等を実施するとともに、基礎的・基本的な知識・技能を高める宿題をsmall stepで計画的に出す。②自主学習ノートの意義や有効な活用方法を指導し、生徒各自に自らの課題を自覚させ取組の改善をさせる。③テスト勉強計画を個別に立てさせ、主体的に着実に復習させる。	①宿題や生活記録を毎日出させる。②学習内容に応じて小テストを行い、弱点補強をする。③創意工夫し、内容を充実させた自主学習ノートを年間5冊行わせる。④テスト勉強計画表に計画と記録を書かせる。	評価	次年度における改善事項	

(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	話すことや書くことによって、自分の感想や考えを伝えることができる。授業の中で表現活動をする際、より高度で豊かに表現できることをめざし、他から学びながら意欲的に取り組むことができる。	徳島県学カステップアップテストにおいて、思考力・判断力・表現力等に関する問題の正答率を、10月には4月より向上させる。			
課 題	課題解決に向けて自ら考え判断する力に課題が見られる。小集団では意見を発言できても、大きな集団になると自信を持って発言することができないこともある。	全ての教科で、自分の考えを明らかにさせる言語活動を年間計画や授業時間の中で計画的に位置づけ、活動内容を充実させるとともに、習得した知識・技能を実際に使用する場面を増やす。	課題に応じた研究授業・授業参観を年間4回以上行い、教師が互いに評価し合う。	評価	次年度における改善事項

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ	落ち着いた学習に取り組む。読書や家庭学習の習慣が定着しており、与えられた課題について真面目に取り組むことができる。	人権アンケートにおいて自己肯定感を持つ生徒の割合を、各学年で、年度末には4月当初より向上させる。			
課 題	学ぶ楽しさを感じ、主体的に学んでいると言えない。また、「今の自分が好きです。」と言える自己肯定感が低い生徒が見られる。	①学校生活全体を通して主体的な活動を多く取り入れ、努力する姿や人との関わりにおいて生徒各自や集団を誉め認め合う。②家庭と連携をとり、ともに協力して子ども一人ひとりを見守り、自信を持たせる。	①学校生活全体において、生徒が主体的に企画・運営する場を学期に1回以上設ける。②機会を捉えて家庭との連絡を密にする。	評価	次年度における改善事項

平成28年度 学力向上ロードマップ

